

対象者の外泊に同行した看護師が感じた対象者の “生活上のつまずき”について

— 関連する生活能力と背景および要因の調査 —

山本祐也^{1)*} 太田大輔¹⁾ 亀崎久美子¹⁾ 寺脇恭子¹⁾ 堀真由美¹⁾ 上野文靖¹⁾
小乾みどり¹⁾ 澤田典子¹⁾ 高間さとみ²⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 10 病棟

2) 鳥取大学医学部保健学科看護学 地域・精神看護学講座

Patients' life skills and backgrounds/factors associated with the difficulties faced by them when returning home overnight - From the viewpoints of nurses who accompanied them

Yuya Yamamoto^{1)*}, Daisuke Ohta¹⁾, Kumiko Kamesaki¹⁾, Kyoko Terawaki¹⁾, Mayumi Hori¹⁾,
Fumiyasu Ueno¹⁾, Midori Koinui¹⁾, Noriko Sawada¹⁾, Satomi Takama²⁾

1) The 10th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing Care Environment and Mental Health, School of Health Sciences,
Tottori University Faculty of Medicine

*Correspondence: byoutou9@tottori-iryō.hosp.go.jp

要旨

心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（以下、医療観察法という）における対象者は、病棟生活において目立つ問題を起こさないが、外泊をすると生活上のつまずきを起こしやすい現状にあることが分かった。そこで、生活上のつまずきに関連した対象者の生活能力と、その背景および要因を明らかにすることを目的として、外泊に同行した経験のある看護師へアンケート調査を実施した。調査の結果を質的に分析して考察すると、外泊に同行した看護師の視点において、生活上のつまずきは、入院によって、一時的にもとあった生活能力が制限されるためであり、低下した生活能力の回復は、多職種チームが方法や範囲を提示することによって試みられていることが明らかとなった。また、生活上のつまずきには、「単独行動中に、対象者の自己決定が求められた」、「問題解決能力が乏しく、支援者に相談が出来なかった」、「支援者も対象者も、できるだろうと思っていた」という背景と要因があることが明らかとなった。

以上より、多職種チームは、対象者と一緒に退院後の生活における必要な生活能力を意識的に確認し、病棟内や外出によって能力の評価および生活上のつまずきを起こす要因の確認を行う必要があることが示唆された。鳥取臨床科学 9(2), 109-115, 2017

Abstract

Patients specified in the Act on Medical Care and Treatment for Persons Who Have Caused Serious Cases

Under the Condition of Insanity (Medical Treatment and Supervision Act: MTSA) have been reported to frequently face daily life-related difficulties when returning home overnight, even if their behavior has not been problematic on hospital wards. To clarify such patients' life skills and backgrounds/factors associated with the daily life-related difficulties faced by them when returning home overnight, a questionnaire survey was conducted involving nurses with experience of accompanying them, and the obtained data were qualitatively analyzed. From the viewpoint of these nurses, temporary declines in patients' life skills due to hospitalization had led to these difficulties. As an approach to restore patients' life skills, multi-professional teams had proposed optimal methods and ranges. Furthermore, [the necessity of making patients' own decisions when acting independently], [insufficient problem-solving skills, making it difficult for patients to consult supporters for help], and [overestimation of patients' skills by themselves and supporters] were backgrounds/factors associated with the difficulties faced by patients when returning home overnight.

Based on the results, it may be necessary for multi-professional teams to sufficiently confirm life skills needed to lead a healthy life after discharge with patients, assess their actual skills on hospital wards and when going out, and identify factors associated with the daily life-related difficulties faced by them. Tottori J. Clin. Res. 9(2), 109-115, 2017

Key words: 医療観察法, 社会復帰, 生活上のつまずき, 外泊, 生活能力; Medical Treatment and Supervision Act (MTSA), resocialization, daily life-related difficulties, returning home overnight, life skills

はじめに

医療観察法病棟では、対象者が退院に至る過程の中で、外泊に同行した看護師の数が漸増している。その外泊に同行した看護師から、「ホテル利用時に設備の使い方を説明したが、『シャワーの使い方が分からなかった為、入浴できなかった。』と翌朝伝えられた。」という報告が数件あり、外泊中の対象者は、生活上のつまずきを起こすことが分かった。

看護師は、対象者を継続的に観察し、精神および身体の変化、さらに日常生活の様子を把握することができる。石橋ら¹⁾は、「医療観察法における看護の基本となるのは、セルフケア援助であり、自己決定支援を行うことによって、健康における問題解決能力を高められるように援助することである。」と述べており、社会復帰期の対象者は、ある程度の症状自己管理や相談の技能について、学習および獲得ができていると考えられる。さらに、院内外の外出において安全に行動できること、病棟での生活能力も退院に近づいていることが確認されていると考え

られる。

以上より、対象者が起こす外泊中の生活上のつまずきは、事前に防止することが可能なのではないかと予測し、生活上のつまずきを起こした対象者の生活能力と背景および要因を明らかにする目的で、今回の研究を実施した。

用語の定義

対象者: 心神喪失、又は心身耗弱の状態、殺人・強盗・放火・傷害等の重大な他害行為を行ったことで、医療観察法による入院の対象となった者。

外泊: 指定入院医療機関の管理者の承認を受け、社会復帰期の対象者を当該医療機関に勤務する医師または看護師などの付き添いによる医学的管理の下に、1週間を超えない範囲で敷地外に宿泊させること。

生活上のつまずき: 外泊に同行した看護師の主観によるもので、対象者が他意なく（悪気なく、意図せず）とった生活行動によって問題が生じ、円滑に外泊中の生活を送れなくなった事象。